

令和6年度 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議



日 時:令和6年11月8日 10:00~

会 場:市役所本館3F対策室

- 1 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の設置について
 - (1) 会議設置の趣旨について
 - (2) 会議の進め方について
 - (3) 設置方針(案)と座長の選出について
- 2 昨年の道路除雪に関する振り返りと今年の除雪計画について
 - (1) 昨冬の振り返り
 - (2) 今年の除雪計画
- 3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について
 - (1) 検証会議での提言について
 - (2) 新潟市の対応状況について

(写真:いずれも新潟市中央区R4.12.19 夕方に撮影)

1 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の設置について

1/19

(1) 会議の設置主旨について ※令和5年11月14日設置

新潟市除雪体制等検証会議(R3～R4)の3つの提言

(1) 除排雪の効率化

- ①早期道路交通の確保 ②地域ぐるみの除雪体制の構築 ③国・県との連携強化

(2) 市民広報の積極的な展開

- ①大雪は災害であることへの理解・浸透 ②大雪時の行動変容を促す ③除雪体制の市民周知

(3) PDCAサイクルの構築

社会情勢や大雪災害発生状況の変化にも対応し、常に、予算や人員等の制約条件を踏まえた最適な除雪体制とするため、「除排雪の効率化」および「市民広報の積極的な展開」に着目し、**総合的な検証を継続すること。**

◇会議の目的

・新潟市では、新潟市除雪体制等検証会議での提言を踏まえて、毎年の道路除雪について、『除排雪の効率化』や『市民広報の積極的な展開』に着目した総合的な検証を継続している。

・本会議では、**新潟市が実施している毎年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて策定した道路除雪計画について、外部の有識者に、広く意見を求め相互共有することで、持続可能な除雪体制への改善につなげていくことを目的とする。**

◇構成員（案）

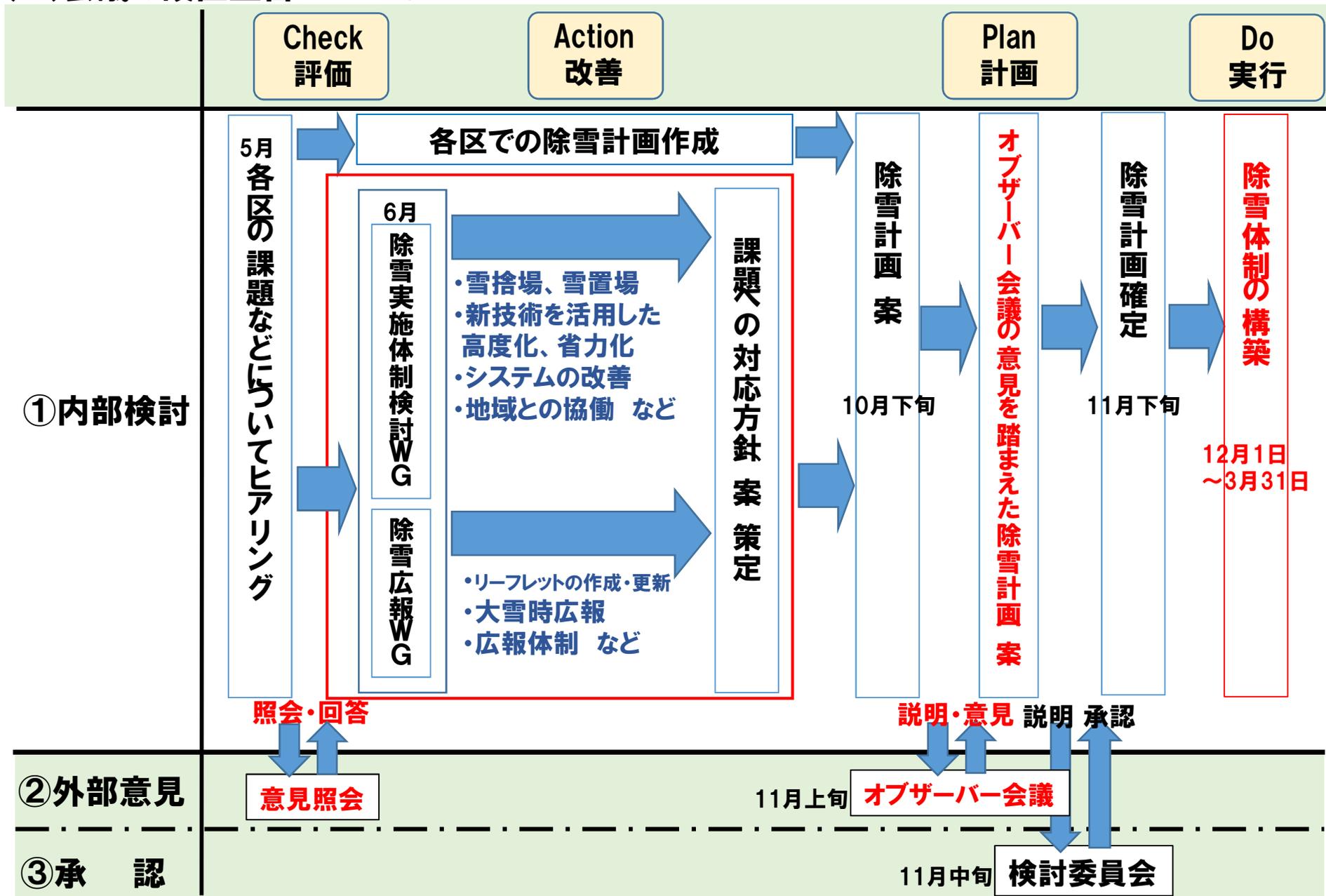
- ・国立研究開発法人 防災科学技術研究所雪氷防災研究センター
- ・(一社)新潟市建設業協会
- ・(一社)新潟市道路保全協会
- ・新潟商工会議所
- ・新潟県トラック協会
- ・新潟交通株式会社
- ・新潟交通観光バス株式会社

◇任 期

令和5年11月14日～令和8年3月31日 ※開催日からとする。

1 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の設置について

(1) 会議の設置主旨について



1 新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の設置について

3/19

(2) 会議の進め方について

○オブザーバー会議のスケジュール

予 定	内 容
◇令和5年秋 第1回オブザーバー会議 11月14日	・会議の進め方について ・検証会議の提言について振り返り ・前年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて策定した道路除雪計画について意見照会
○令和6年春 オブザーバー意見照会 6月13日	・令和5年度除雪対応についての意見照会(書面) (事務局でとりまとめて構成員に共有)
◇令和6年秋 第2回オブザーバー会議 ※今回 11月8日	・前年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて策定した道路除雪計画について意見照会
○令和7年春 オブザーバー意見照会	・令和6年度除雪対応についての意見照会(書面) (事務局でとりまとめて構成員に共有)
◇令和7年秋 第3回オブザーバー会議	・前年の道路除雪に関する検証と、それを踏まえて策定した道路除雪計画について意見照会 ・令和8年度以降の進め方について

(2) 会議の進め方について

○第2回オブザーバー会議（11/8） ※本日

・事務局から以下について説明

（1）新潟市除雪体制に関するオブザーバー会議の設置について

① 会議設置の主旨、進め方等（確認）

（2）昨年の道路除雪に関する振り返りと今年の除雪計画

① 昨年の振り返り ② 今年の除雪計画

（3）新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応

① 検証会議での提言について ② 新潟市の対応状況

○オブザーバー意見の提出（11/15） 会議後2週間程度を目途

- ・後日、会議で事務局から示された新潟市の取組みについて構成員ごとに意見を提出。（アンケート形式を想定）

○オブザーバー意見のとりまとめ（11/22） 11月中の公表目標

- ・事務局でオブザーバー意見の概要版を作成し、提出されたアンケートと併せて市HPで公表する。（アンケートの記載者は非公表）

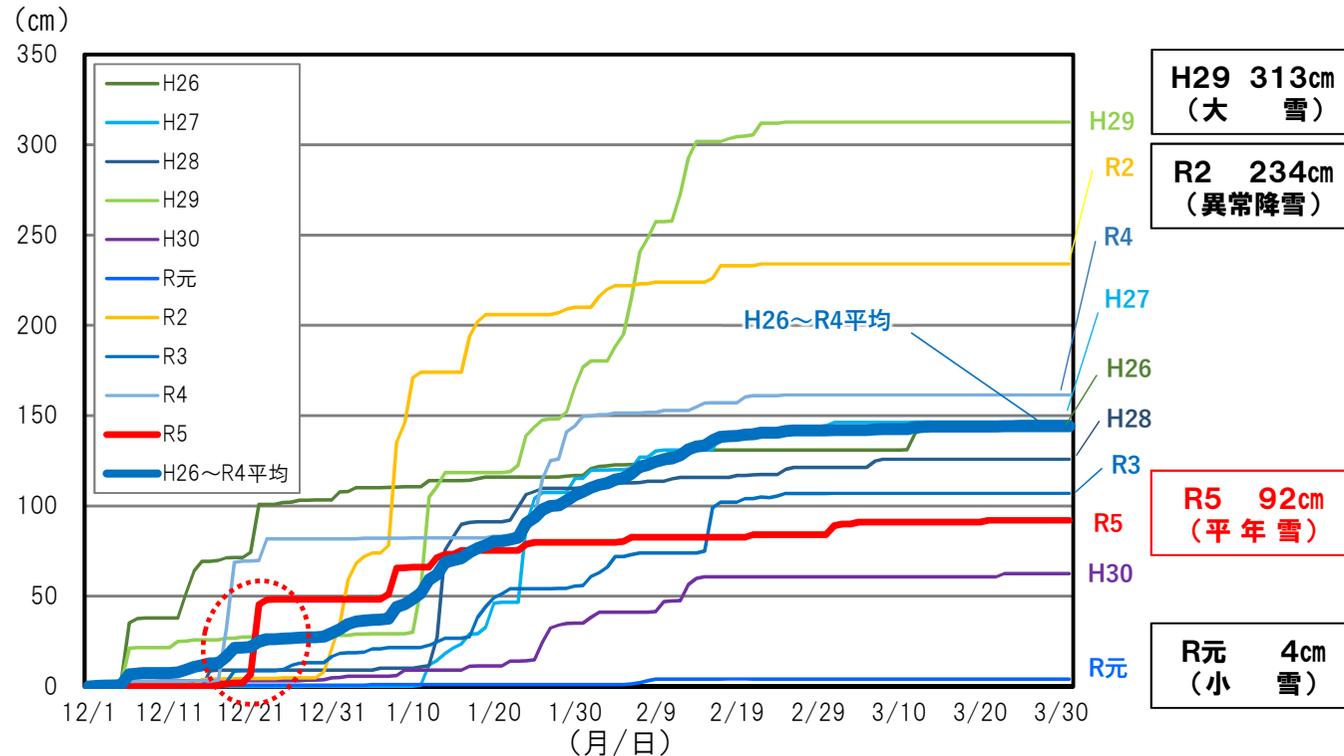
○令和6年度除雪に対するオブザーバー意見（令和7年春）

- ・令和6年度の除雪対応について意見照会（書面を予定）

2 昨年の道路除雪に関する振り返りと今年の除雪計画について

(1) 昨冬の振り返り

◇ 年度別累計降雪量の推移(市内8区の平均累計降雪量)



・年間降雪量は92cm
 ・その半分程度が1度の寒波による異常降雪によるもの
 ⇒気候変動に伴う降り方の極端化が明確に

12/21~12/22
 市内8区平均44cm
 西蒲区59cm
 秋葉区53cm
 南区50cm
 ⇒異常降雪時対応

各年度の平均累計降雪量

	単位	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	H26~R4平均
累計降雪量	cm	143	147	126	313	63	4	234	107	162	92	144

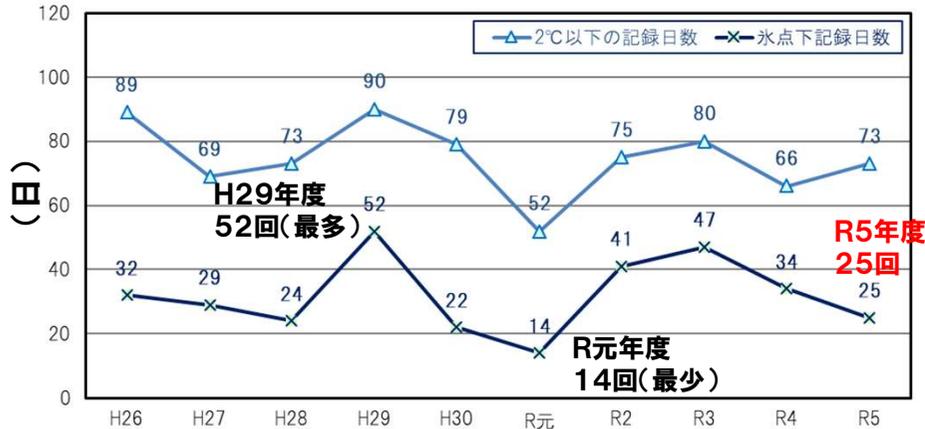
各区の累計降雪量

	単位	北区	東区	中央区	江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	市平均	備考
R5年度	cm	102	68	79	99	124	116	48	98	92	①
R4年度	cm	207	125	172	231	192	124	122	119	162	②
R4比①/②	%	49.3%	54.4%	45.9%	42.9%	64.6%	93.5%	39.3%	82.4%	57.0%	①÷②

2 昨年の道路除雪に関する振り返りと今年の除雪計画について

(1) 昨冬の振り返り

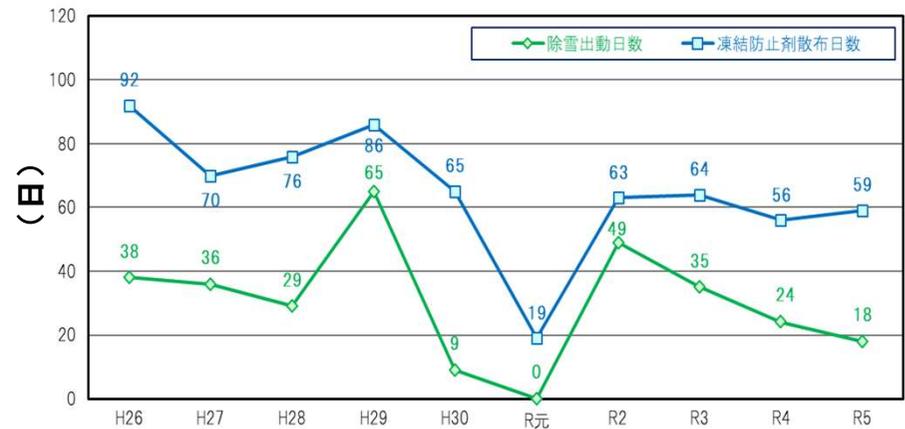
◇ 氷点下記録日数の推移(過去10年)



	単位	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
2°C以下の記録日数	日	89	69	73	90	79	52	75	80	66	73
氷点下記録日数	日	32	29	24	52	22	14	41	47	34	25

※ 気象庁新潟観測所(中央区)データによる。

◇ 除雪出動日数と凍結防止剤散布日数の推移



	単位	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
除雪出動日数	日	38	36	29	65	9	0	49	35	24	18
凍結防止剤散布日数	日	92	70	76	86	65	19	63	64	56	59

※ 市内1箇所でも出動・散布があった日の合計日数。

◇ 除雪費(過年度との比較)



除雪費の内訳

	R4	R5
固定費	20億円	23億円
散布	6億円	4億円
排雪	14億円	1億円
歩道	2億円	1億円
車道	25億円	10億円
計	67億円	39億円

除雪出動日数

R4 24回
⇒R5 18回

凍結防止剤散布日数
R4 56回
⇒R5 59回

- 年間の降雪量が1回の寒波に集中し、それ以外の期間で降雪が少なかったため、除雪の出動回数は例年に比べて少なかった。
- しかし、1回の寒波で短期集中的な降雪となったため、雪をかき分けるスペースを確保するため、全区で排雪作業を実施した。

2 昨年の道路除雪に関する振り返りと今年の除雪計画について

7/19

(1)今年度の除雪体制について

(別途配布資料にて説明)

(1) 検証会議の振り返りについて

H29年度の大雪を踏まえた様々な取り組み

- ① 除雪車運行管理システムの導入
- ② 新たな雪捨て場の確保
- ③ PRパンフレットの作成
- ④ 凍結防止剤散布の見直し
- ⑤ 市内部の除雪応援体制の確立

R3年1月市全域で短期間に集中的な大雪となり、10日間で150cmの降雪を記録。除雪作業が追い付かず、交通渋滞の発生や公共交通の運休、物流の停滞など、市民生活や経済活動に大きな影響を受けた。

新潟市除雪体制等検証会議を設置し、道路除雪に関する課題や、対応について議論

【新潟市の除雪に関する課題】

- ・気候変動の影響から、数年に1度の大雪が発生
- ・大雪の年と小雪の年とで、降雪量に極端な差があるため、大雪に特化した体制の構築が困難
- ・市民広報において、降雪前に備えておくことや、降雪時の市の対応状況など、伝えきれていない。
- ・大雪は災害であることの意識向上を促す必要

提言書(最終とりまとめ) 令和4年7月

1 除排雪の効率化

(1) 早期道路交通の確保

異常降雪時に排雪を行う際は、排雪基準に基づき、より効率的な除排雪作業を実施すること。また、地域の協力を得ながら除雪路線近隣に多くの雪置き場を確保することや、雪捨て場の渋滞を解消するためにも、多くの雪捨て場を確保すること。

(2) 地域ぐるみの除雪体制の構築

新潟市は、除排雪を効率的に実施し、市民は、出控えなどの生活の工夫を行い、事業者は在宅勤務や時差出勤など事業展開の工夫を行う等、新潟市と地域が一体となった除雪体制を構築すること。

(3) 国・県との連携強化

異常降雪時において、除排雪機械の応援や人員の応援などを迅速に体制構築できるように相互の連携強化を求める。

2 市民広報の積極的な展開

(1) 大雪は災害であることへの理解・浸透

大雪時には、新潟市の除雪体制では道路交通を確保するには長い時間がかかってしまう。この間は、交通渋滞や公共交通の運休等が予想されることを広報すること。

あわせて、大雪に関しては災害意識が低いと思われるため、さまざまな手法を通じて市民の災害意識の向上を促すこと。

(2) 大雪時の行動変容を促す

テレワークの推進や休業・休校など外出自粛に繋げる市民広報を行い、行動変容を促すこと。

そのためには、道路の堆雪状況や降雪・積雪条件、除雪能力、社会条件等から大雪に対する対応力のレベルを設定し、そのレベルにあった除排雪や市民への行動変容が可能となるよう試行・検証を実施すること。

(3) 除雪体制の市民周知

新潟市の除雪体制について、パンフレットやリーフレットにより十分周知するよう努めること。大雪時には、市民の不安解消に向け、各種メディアを活用し継続的な除雪状況などの情報発信を行うこと。

3 PDCAサイクルの構築

今後、人口減少や予算減少、地球温暖化による大雪の局地化・激甚化等が想定される一方で、ICTやAIなどを活用した作業の効率化・省力化や、情報の高度化に関する新技術の活用が期待されている。

これらの社会情勢や大雪災害発生状況の変化にも対応し、常に、予算や人員等の制約条件を踏まえた最適な除雪体制とするため、「除排雪の効率化」および「市民広報の積極的な展開」に着目し、総合的な検証を継続すること。

3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について

(2)新潟市の対応状況について(除排雪作業の効率化)

項目	目標	取組み	R3	R4	R5	R6	備考
1 除排雪作業の効率化							
(1)早期道路交通の確保							
効率的な作業の実施	機械の受持ち延長の適正化	毎年の稼働実績を活用し見直す	見直し (27台)	見直し (22台)	見直し (11台)	見直し (6台)	今後も継続する R3~R6 66台の増台
	排雪作業の効率化	排雪基準を策定し、基準・優先順位に明確にする	基準策定	基準に基づく作業 →			
	雪捨て場の確保	毎年の排雪作業から増設箇所を抽出する	増設 (19箇所)	増設 (1箇所)	増設 (4箇所)	増設 (1箇所)	今後も継続する H29 23箇所 ⇒134箇所
バス交通の確保	バス交通支障箇所の速やかな解消	バス事業者と連携し対応マニュアルを作成	—	策定	改訂	一部修正	毎年、連携会議を開催し、相互に検証を行う
新技術の活用	除雪作業の更なる効率化・高度化・省力化	新技術の活用について、試行・検証を実施	—	試行着手	試行継続	試行継続	今後も継続する
(2)地域ぐるみの除雪体制の構築							
地域が一体となった除雪体制	地域で実施する除雪作業に対する補助制度の拡充	アンケート等でニーズを把握し、精度見直しを検討	—	一部拡充	一部拡充	一部拡充	今後も継続する。
(3)国・県との連携強化							
国・県・関係団体との応援体制強化	関係機関との応援体制や除雪協力体制の拡充	関係機関と応援体制について確認	実施	—	—	—	

(2)新潟市の対応状況について(除排雪作業の効率化)

①効率的な除排雪作業の実施

機械の受持ち延長の適正化

- ・ 除雪車運行管理システムに蓄積されているデータを活用し、異常降雪等を除いた標準的な降雪に対して、除雪作業の稼働時間が長時間となっている路線を抽出。
- ・ 回送距離や作業時間等を最適化することで、経済的に有利となる路線について、機械の増台を実施。

機械の増台状況(R3～) (単位:台)

	R3	R4	R5	R6	計
国県道	3	-1	0	1	3
市道	24	23	11	5	63
計	27	22	11	6	66

上記台数には路線再編や新規供用に伴う増減も含む

今後の取組み

- ・ 引き続き、システムに蓄積されたデータを活用しながら、受け持ち延長の適正化を進めていく
- ・ 今後は増台効果の検証にも取り組みを進める

雪捨て場の確保

- ・ 排雪作業の効率化や雪捨て場での車両の滞留を防ぐため、H30年度から雪捨て場の増設を実施

雪捨て場・雪置場の増設状況(R3～)

(単位:箇所)

	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	備考
雪捨て場	18	20	20	24	27	26	26	25	
雪置場	5	51	57	85	101	103	107	109	
合計	23	71	77	109	128	129	133	134	1箇所増

- ・ 災害関連で使用不可となる箇所があったが、新たに雪置き場の確保に努めた。
- ・ 一方で、バス路線を多く抱え排雪が多い区での排雪費の増大が財政的な課題となっている。

今後の取組み

- ・ 毎年の除雪対応において、課題箇所の抽出を行い、雪捨て場の確保に引き続き取り組む
- ・ コスト要因を把握し持続可能な除雪に取り組む

3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について

(2)新潟市の対応状況について(除排雪作業の効率化)

②新たな取り組み(新技術の活用について)

冬期間の道路状況について、随時の客観的な状況把握ができていない。

(原因)状況把握の手段は、パトロールがメイン。

⇒①状況判断はパトロール員の主観によるところが大きい。

⇒客観的な作業指示や情報発信が困難

②パトロール～結果の取りまとめに大雪のときほど時間がかかる。

⇒作業指示にかかるオペレーションが非効率

③パトロール体制の確保が必要

新技術を活用した業務の効率化・高度化・省力化に関する取組み(試行)を継続(R6)

R5試行

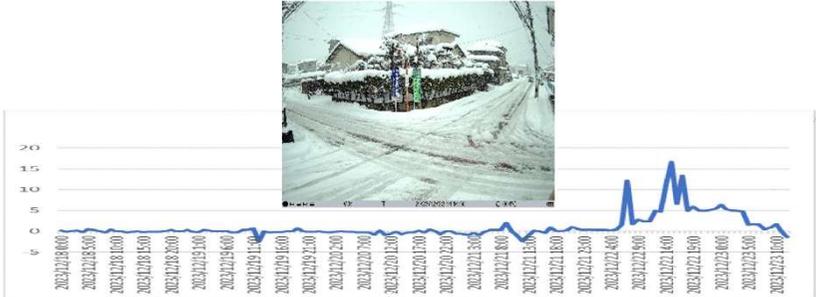


R6試行・拡充

全区	北区・中央区 → 全区
<p>【移動観測】</p> <p>AIスマホ路面判定システム 27台→20台 ※搭載車両を整理</p> <p>道路パト車(直営) 16台 除雪パト車(委託) 2台 凍結防止剤散布車 2台</p> <p>AIスマホ路面判定システム</p>  <p>自主出動する除雪協力業者の車両にも配備</p>	<p>【定点観測】</p> <p>カメラ付き簡易積雪深計 7台→12台</p> <p>除雪出動判断用 10台 バス通行支障確認用 2台</p>  <p>カメラ付き簡易積雪深計</p>
<p>試行結果(区担当者へ聞き取り)</p> <p>状況把握に係る時間の短縮効果大きい。</p> <p>画像データに基づき、具体的な作業指示ができた。</p>	

(2)新潟市の対応状況について(除排雪作業の効率化)

②新たな取り組み(新技術の活用について)

移動観測	定点観測
<p>①AIスマホ路面判定システム</p>	<p>②カメラ付き簡易積雪深計</p>
	
<ul style="list-style-type: none"> ・パト車両に搭載したスマートホンで路面を撮影。(2秒に1枚) ・画像データは随時クラウド上にアップされ、AIで路面状況を判定。 ・判定結果は、マッピングされ画像データと併せて共有される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積雪量、降雪量、気温、画像を記録。 ・バッテリーで稼働させるため、比較的容易に設置可能。 ・カメラの観測頻度は1回/30分程度。 ・積雪深計の観測頻度は1回/10分程度。
<ul style="list-style-type: none"> ・画像と軌跡がリアルタイムに共有されるため、時間短縮効果大きい。 ・協力業者の車に配備することでパトの省力化も図れる。 ・AI判定の精度向上が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・精度がそれ程高くないため、公表用のデータとしては活用できないが、カメラと併用することで、除雪業務の補助として活用可能。
<p>【今後の取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除雪出動の効率化のために必要な定点カメラ台数等の検討 	

(2)新潟市の対応状況について(除排雪作業の効率化)

③その他の取り組み

【凍結防止剤散布の検証】

- ・ 圧雪状態での薬剤散布により路面状態の悪化しているのではとの問題提起を受け、検証を検討中
- ・ 路面に雪がある状態での散布の有無により路面が悪化して走行性に影響が出るか、比較対象区間を決めて検証を計画
- ・ 札幌市など除雪と凍結防止剤散布の連携も参考

【ワンオペ除雪の試行】

- ・ 除雪オペレーター担い手不足に対応するための「ワンオペ除雪」への対応
(一部の除雪機械は従来の2人乗りから1人乗りへ)
- ・ 新潟県では令和3年度から試行を開始し令和6年度は県内全地域に拡大(予定)
(バックモニタ、センサーなど安全装置を県で除雪機械に設置)

→新潟市においてもワンオペ対応への要望があることから、試行開始を検討中



**予算や人員等の制約条件を踏まえた最適な除雪体制の構築に向け
課題の抽出と取り組みを進める**

3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について

(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

項目	目標	取組み	R3	R4	R5	R6	備考
2 市民広報の積極的な推進							
(1)大雪は災害であること の理解浸透							
市民に災害意識の向上	降雪期前)大雪は災害 であること の理解促進	各種媒体を活用し広報 活動を実施(パンフレット、 ポスター、HP、テレビな ど)	実施	→			継続して取り組む
	降雪期)日頃から、大雪 への備えや、最新情報を 確認することを促す	・HPに雪の特集ページ ・降雪が予想される場合 は、SNSで情報発信	一部 試行	試行	→		継続して取り組む
(2)大雪時の行動変容を 促す							
市民の行動変容を促す	指標レベルを設定し、その レベルに応じた情報発信 を行う	・指標レベルの設定や、 それに応じた広報に ついて試行・検証を実施	一部 試行	試行	→		継続して取り組む
(3)除雪体制の市民周知							
	除雪体制の市民周知	新潟市の除雪体制に ついて、パンフレットに より周知する	実施	→			継続して取り組む
	市民の不安解消	・除雪の進捗状況に ついてHP上で公開	一部 実施	実施	→		継続して取り組む

新しいパンフレット作成

3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について

(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

新潟市除雪体制等検証会議 (R3~R4)

提言の3本柱

- 1 除排雪の効率化
- 2 **市民広報の積極的な展開**
- 3 PDCAサイクルの構築



大雪は災害であることへの理解・浸透

- ・大雪時は、**道路交通確保に時間がかかることや、交通渋滞・公共交通の運休等が発生することを広報すること**
- ・**さまざまな手法を通じて市民の災害意識の向上を促すこと**

大雪時の行動変容を促す

- ・**外出自粛に繋げる市民広報**を行い、行動変容を促すこと
- ・大雪に対する**対応力のレベル**にあった除排雪や市民への行動変容が可能となるよう**試行・検証**を実施すること。

除雪体制の市民周知

- ・新潟市の除雪体制について、**パンフレットやリーフレットにより十分周知**するよう努めること。
- ・大雪時には、市民の不安解消に向け、各種メディアを活用し**継続的な除雪状況などの情報発信**を行うこと。

降雪期前

平常時

降雪期

大雪時

広報内容

- ・大雪は災害であることへの理解・浸透
- ・除雪体制の市民周知
- 除雪方法、協力のお願、お役立ち情報など
- ⇒各種媒体による広報活動
- パンフレットやポスター掲示、市報、テレビ、HP
- ⇒イベント開催などによる意識啓発
- Jリーグ開催にあわせたイベント、道の日イベントなど



広報内容

- ・日頃から大雪への備え
- ・最新情報の確認
- ⇒HP内に情報を集約した**特集ページ**を設置
- 掲載情報は、気象情報、除雪状況、公共交通、ライフライン、ゴミ収集、高齢者支援など

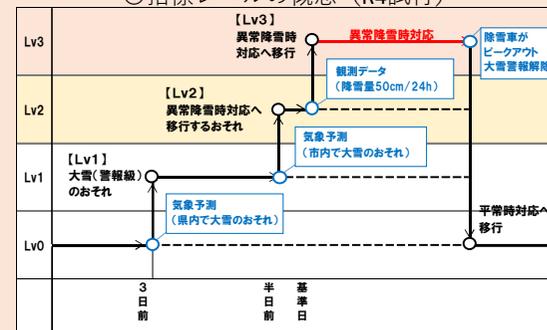
○除雪状況の公開ページ(新潟市HP)



広報内容

- ・気象予測や降雪状況に応じた**レベル毎に広報を実施**
- 平常時の内容に加えて「不要不急の外出抑制」や「異常降雪時対応への移行と市民への協力のお願」など
- ⇒**SNSやHPで情報発信**
- 市公式ライン、防災メール、Twitterなど

○指標レベルの概念 (R4試行)



3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について

(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

①新パンフ「にいがた雪の日辞典」の作成・配布(R5)

- ① それまでの「にいがたゆきみちガイド」や「大雪は災害」の広報内容(除雪に関すること)を自助・共助・公助の視点で整理
- ② プッシュ型の広報を推進するため、公式LINEなどSNSへの登録を促す内容を新たに追加
- ③ ゴミ収集やライフライン(水道、電線など)お役立ち情報を充実



好評を得たことから、関係者の意見を踏まえて改訂(R6)

主な拡充内容

- P 6 冬道の安全走行
- P13 凍結防止剤の散布
- P15~16 異常降雪時の出控えのお願いと情報発信
- P18 電線類の垂れ下がり対応

- ・12月から、各自治会を通じて、各家庭へ配布
- ・市役所の窓口等へ設置するほか、ホームページで公開
- ・市内各所へポスターを掲示

内容の追加や更新を行いながら、今後も更新していく予定

〇にいがた雪の日辞典



〇2024年版



(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

①新パンフ「にいがた雪の日辞典」の作成・配布(R5)

広報の効果

【各区建設課より】

- ・広報がうまく伝わったのか、苦情が思いのほか少なかった。
- ・自宅前のかきわけ雪についての苦情はほとんどなかった。市民の理解が進んだと思う。
※かき分け除雪の周知をとくに広めたほうがよいとの意見も
- ・全戸配布は、市民対応など現場サイドからしても効果があったと感じた。

【情報掲載関係部署・団体より】

- ・関係部署連絡先一覧があり簡潔に記載されており、悩まず連絡できるとの声があった。
- ・近隣地域の方々から「いいね」「わかりやすい」などおほめのことばをいただいた。

課題等

【各区建設課より】

- ・異常降雪時の発信が弱い。
- ・異常降雪時の外出自粛の広報を強化してほしい。

【情報掲載関係部署・団体より】

- ・(異常降雪時の)食料品、水のローリングストックの内容の記載
- ・もう少し文字フォントを大きくして配置に余裕を持たせたほうが見やすい

効果のあった項目を継続し、課題に対応するよう改訂(前掲)

3 新潟市除雪体制等検証会議の提言を踏まえた対応について

(2)新潟市の対応状況について(市民広報の積極的な展開)

②大雪時の行動変容を促すための広報について

検証会議の提言(概要)

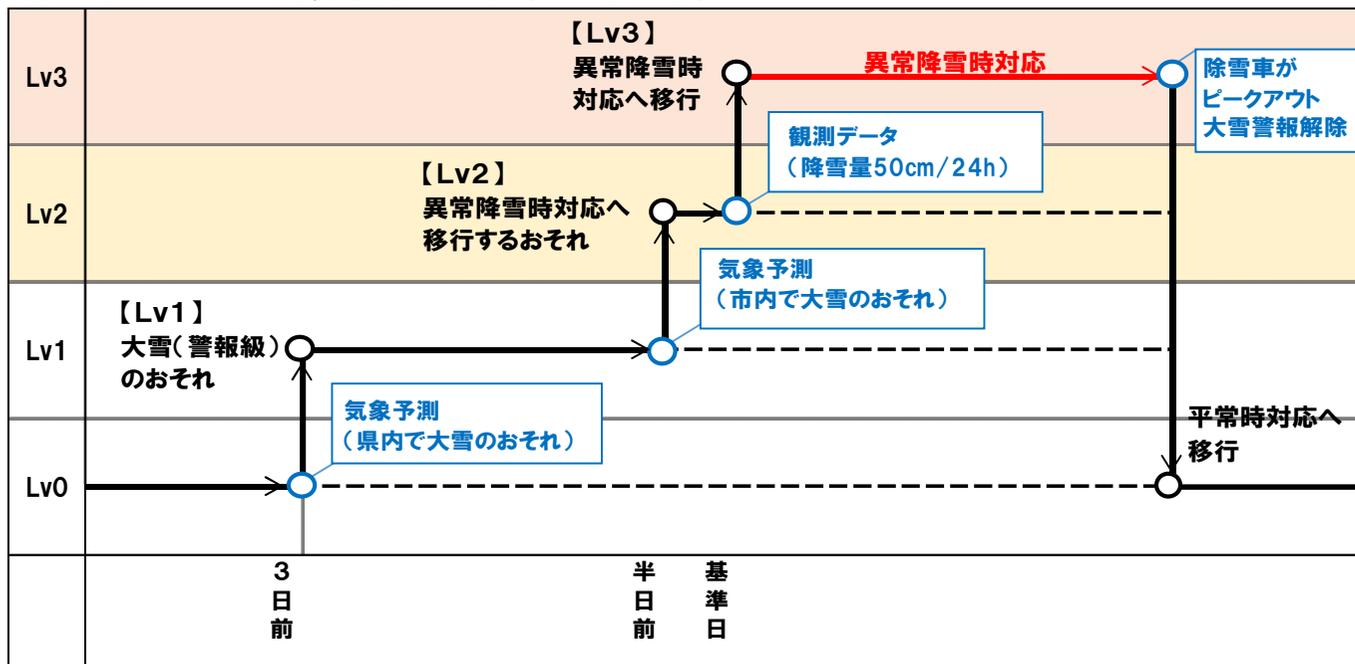
- ・外出自粛に繋げる市民広報を行い、行動変容を促すこと
- ・大雪に対する対応力のレベルにあった除排雪や市民への行動変容が可能となるよう試行・検証を実施すること。

【R4から試行の内容】

- ・指標の設定(Lv0~Lv3)
- ・レベル毎にSNSで行う広報のひな形を作成

HP, 市公式LINE, 防災メール、X(旧Twitter)で情報を発信

○指標レベルの設定イメージ(R4試行)



・大雪となる数日前に国から発出される大雪に関する情報にあわせてタイムラインを作成

・Lv1とLv2への移行は気象予測による

・Lv3への移行は、除雪体制が異常降雪時対応に移行するタイミングとした

※ 異常降雪時対応:50cm以上/24h以上の降雪時に幹線道路を優先的に確保する体制に移行

令和4年度の試行では、12月(Lv3)と1月(Lv2)の寒波で広報を実施。

令和5年度は12月(Lv3)の広報を実施

(2)新潟市の対応状況について(市民広報積極的な展開)

令和5年度実施時の課題と対応

【各区役所建設課より】

- ・ 異常降雪時対応への移行の連絡が各区の建設課に伝わるより早く広報で伝わってしまった
→庁内連絡体制について確認し、異常降雪時体制に支障なく移行できるようにする
- ・ 異常降雪時の発信が弱い。ラジオやテレビで異常降雪について発信すれば認識も大きく変わるのではないか ※オブザーバー意見照会でも同様の意見あり
→ラジオ、テレビでのニュース速報で対応してもらえるか検討中

※さらなる取り組み…異常降雪時の市民の行動変容に向けて(R6)

異常降雪時の出控えの浸透に向けた協議等

○庁内の取り組み

大雪に伴うテレワークの推進

○学校等の対応(異常降雪時の休校等)

教育委員会等と意見交換

小中学校は義務教育であること、休校時の児童生徒の居場所の確保が課題

高等学校について意見交換をすすめていく

○企業等

関連団体を通じて出控え等の課題の投げかけを検討 ※関連…雪のBCP



リモート学習、リモートワークの事前準備としての大雪情報(LINEアカウント)の活用